

株式会社 日本ベル投資研究所 (ベルトーケン)

2014年7月1日

代表取締役 鈴木行生

第4期 事業報告書

1. 決算期 2014年6月期 (2013年7月～2014年6月)

2. 決算内容

- ・引き続き活動領域は広がっており、そのクオリティを上げることに重心を置いた。
- ・前期をやや上回る安定した収入と一定の利益を上げることができた。
- ・社会貢献活動を主軸にしているため、取締役報酬は取らない方針である。よって、役員報酬および配当は無い。
- ・納税、寄付のほかは内部留保し、今後の活動資金として活用する。
- ・定款を変更して、有価証券に関する投資ができるようにした。

3. 事業内容

- ・ I R (インディペンデントリサーチ) アナリストレポートを、原則四半期ごとに19社について発行した。
- ・ 投資環境レポートを四半期ごとに発行し、企業の経営環境、経営行動、株式市場に関わる変化など、企業を見る目をいかに養うかについて具体的に検討した。タイ、カンボジアで調査を実施した。
- ・ 英語での要請に答えて、企業レポートの英文化を一部継続的に実施した。
- ・ 事業会社の企業経営、I R活動についてアドバイスした。
- ・ 事業会社の要請により、株主通信でトップマネジメントと対談した。投資家の視点で知りたい項目について質問し、理解を深めるようにした。
- ・ 投資情報ポータルサイトに投資家の啓蒙に向けたコラムを継続的に執筆した。外部依頼の原稿で、企業価値創造のあり方について意見を述べた。
- ・ 外部依頼の個人投資家向け講演会で適宜講演した。
- ・ 事業会社や官庁の依頼で社外セミナー、社内セミナーや社内研修の講師を担当した。
- ・ 資産運用会社の内部監査 (I A) について継続的にアドバイスした。

4. 対外活動

- ・ 独立社外取締役として、事業会社の経営発展に貢献すべく活動した。
- ・ 経済産業省「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構

築」のプロジェクトメンバーとして、分科会の座長などを務め、議論に参画した。

- ・ 統合レポートに関するWICI表彰に当たって、審査委員長を務めた。誠実な企業賞(インテグリティ・アワード)の審査委員を務めた。
- ・ 東日本大震災の復興支援として、「東日本大震災こども未来基金」支援義援金セミナー「現在、そして今後の有望企業は何か?を語る義援金セミナー」に、主催者の一員として参画した。
- ・ 大学院にて、IRあり方についてゲスト講義を行った。アナリスト協会の試験委員として、問題作成・採点などの活動を行った。

### 5. 事業成果

- ・ 当社のパートナー鈴木淳美常務執行役員との連携により、アナリストレポートを継続的に発行し、当社ブランドの認知度を一層高めることができた。
- ・ レポートの配信について、ブルームバーグなど有力サイトや関係先へネットワークを広げることができた。
- ・ 英文レポートを継続的に発行する体制を整えた。

### 6. 次期の課題と対応

- ・ 引き続きアナリストレポートの発行と配信に力を入れる。
- ・ レポートの内容については、当該企業のビジネスモデルの解明に力を入れ、企業価値の将来予測と品質の向上に一層努める。
- ・ 企業の統合報告がより充実する視点で、投資に役立つアナリストレポートを書いていく。
- ・ 日本における個人投資家層の大幅な拡大に向けて、外部の組織と連携して、アナリストレポートの発行と啓蒙的な活動に一段と力を入れる。
- ・ 内部資金を活用した有価証券投資をスタートさせたが、長期投資の視点で価値創造企業へ投資していく。なお、当社が発行する企業レポートの企業に投資することは原則として行わない。投資する場合は、その状況を継続的に開示し、利益相反が生じないようにする。